



## 「わたしにつながっていないさい」

～私たちの人生の方向性～

「ですから、わたしのうちに生きるよう心がけなさい。またわたしが、あなたがたのうちに生きられるようにしなさい。枝は幹につながっていないければ、実を結べないでしょう。同じようにあなたがたも、わたしから離れたら、実を結ぶことはできません。」

ヨハネによる福音書15章4節〔リビングバイブル〕

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である」〔1節〕と15章は始まっています。

「ぶどうの木」はしばしば旧約聖書において、「神の民イスラエル」として描かれています。「まことのぶどうの木」とは、「本当のイスラエル」を差しています。人を導くのは形式や伝統ではなく、人を導くのはやはり人。これまでのイスラエルは神に背き、神ご自身が選んだイスラエルとしての生き方を捨ててしまいました。そこで、「本当のイスラエル」として神は、イエス・キリストをこの世に送られました。「人はこのように生きるのですよ！」という模範を示されました。それこそが、福音であり、それこそが、救いでした。イエス様のお姿こそが人類の救いとなりました。その生き方を受け入れて、その生き方に従う人々が「クリスチャン」となっていきました。その生き方は、一言でいえば「愛」でした。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」〔13節〕。イエス様が生きた「愛」の方向性は、「自分」ではなく、「他者」に対してでした。それは、神ご自身であり、隣人です。「愛」の方向性が自分自身に向いている間は、この世の生き方となっています。そして、その生き方を続ければイエス様から離れて、切り取られて、実を結ばない、空しい、死んだような人生となってきます。しかし、それを、意図的に神の方向、隣人の方向に向けていくことで、イエス様につながる生き方となっていく、やがて、豊かに実を結ぶ人生となるのです。

「あなたがたは、自分でわたしを選び、わたしを信じたのだと思っているかもしれませんが、そうではありません。むしろ、わたしがまずあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが出て行って実を結び、その実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名前によって天のお父様に求めるものは何でも、天のお父様が与えてくださるためです」〔16節・現代訳〕。私たちは自分ですべてを選んで人生を歩んでいると感じていますが、実はそうではなく、神ご自身が農夫として私たちの人生を導いておられるということです。私たちは現代の日本に生きています。それは、聖書の書かれた時代と背景とは全く異なりますが、実は神ご自身はこの時代、この国において生きている私たちを選び、キリストによって豊かな愛の実を結ぶようにと願っておられます。その結果、私たちの内に豊かな喜びが満ちあふれるようになるためなのです。「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」〔11節〕